

香味さわやかな晩生品種。

おくみどり



樹勢が強く、栽培や製茶が容易で外観が細よれしやすく、色沢は濃緑色で香味にすぐれた、晩生品種です。

品種の来歴と特徴

「おくみどり」は、農林省茶業試験場(現独立行政法人野菜茶業研究所)で育成されました。登録されたのは昭和49年です。萌芽期が、やぶきたより11日、摘採期が8日遅い晩生品種です。新芽の硬化が遅く、伸びがよく、多収です。

品質の特性

製茶品質は、外観は細よれしやすく、色沢は濃緑色で、香味はさわやかですっきりしていて良好です。特に個性的な品質ではありませんが、欠点やくせがなく、使いやすい品種です。

栽培上の注意点

樹勢が強く、樹姿は直立型です。晩生で耐寒性が強いので、山間地や霜害を受けやすい地帯にも適します。炭そ病には弱く、発生しやすい地域では防除が必要です。クワシロカイガラムシの発生にも注意が必要です。

加工上の注意点

製茶が特に難しい品種ではありませんが摘み遅れると茎が目立ちます。新鮮な香りを活かすようにすると、品種の特徴を出すことができます。

普及および栽培適地

静岡県では奨励品種にはなっていますが、現在35ヘクタール程度栽培されています。京都府の煎茶生産地域および三重県のかぶせ茶産地において、中生の「やぶきた」と晩生の「おくみどり」を組み合わせて摘採期の拡大や労力分散を図り、経営を安定化している例がみられます。愛知県では「ん茶」として、福岡県では玉露としても、高く評価されています。佐賀県では、品種組み合わせ用の晩生品種として注目されています。宮崎県・鹿児島県では、規模の拡大によって「やぶきた」だけでは回らなくなり、「おくみどり」を導入して摘採期の分散を図っています。

苗木の入手方法

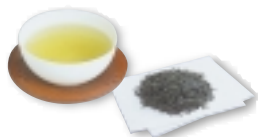
種苗法が制定される以前に育成された品種ですので、苗の増殖や販売は自由に行うことができます。

命名の由来

待望久しいすぐれた晩生の緑茶用品種という意味で、「おくみどり」と命名されました。



品種名	育成年	種苗登録の有無	育成場所	来歴	
				やぶきた	静岡在来16号
おくみどり	1974	無	野菜茶試	やぶきた	静岡在来16号



早晩性	樹姿	樹勢	収量性	品質			耐寒性 (赤枯れ)	耐病性 (炭そ病)
				色沢	香気	滋味		
晩生	直立~やや直立	強	多	上	上	上	強	炭そ病には弱